

「住民協ひろば」刷新のお知らせ

現「住民協ひろば」は、今月号（第107号：令和8年3月号）をもって終刊となり、次月号より、新しい「住民協ひろば」に衣替えいたします。 久小校区住民自治協議会

・・・SAFとは・・・

最近こんなTVコマーシャルを見たことありませんか？

サフ（SAF）、サフ（SAF）と言いながらエビの天ぷらをお客さんに差し出す画面です。

その天ぷらは飛行機のような形をしています。

この天ぷら油で飛行機を飛ばすと云うのです。

2050年にはカーボンニュートラルな社会を目指す、政府は公言していますので様々な領域でCO2削減に取り組む必要があり、飛行機を飛ばす際にも当然排出されるCO2。

この削減も課題の一つで、ではSAFとは？です。

SAFとは持続可能な航空機燃料（Sustainable Aviation Fuel）の事で廃食用油、微細藻類、木くず、サトウキビ、古紙などを主な原料として製造され、従来使用されている化石燃料（石油など）から作ったジェット燃料と比べ、CO2削減効果を期待されます。

例えばSAFの一種であり微細藻類や木くずからつくられる「バイオジェット燃料」は、燃焼させるとCO2を排出しますが、その元となるバイオマスはCO2を吸収して再生産されるため、全体として見れば大気中のCO2が増加しない燃料と見なすことが出来ると云うことです。

CO2の削減ではありません。SAFを航空機に搭載して使用するためには、世界最大規模の国際規格標準化団体「ASTM international」が策定・発行する規格に適合していることが求められます。また国際規格により、化石燃料から作ったジ

ェット燃料に混合して使用することが求められ、最大50%まで混合することが可能となっています。

飛行機の利用に伴うCO2排出量を輸送量当たりでみると自家用乗用車に比べれば少ないものの、鉄道などのほかの公共交通と比較すれば多いと算定されます。

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量（旅客の場合）

自家用乗用車 128(g-CO2/人km)

航空 101(g-CO2/人km)

バス 71(g-CO2/人km)

鉄道 20(g-CO2/人km)

しかし移動時間との関係を見れば必ずしも「航空を使用しない」という選択肢を取るわけではありません。特に島国日本から見れば海外との往來を航空に依存せざるを得ません。加えて現在は、外国人旅行者の誘致が求められています。

しかし現在飛行機で使用されているジェット燃料（ケロシン）は単位重量当たりのエネルギー密度が高くすぐに代替え出来る燃料は現時点では存在しません。

それでもカーボンニュートラル実現のためには航空のCO2削減は必須です。

ICAO（国際民間航空機関）が作成した国際航空輸送分野におけるCO2削減寄与率は2050年時点で55%となっており、SAFに大きな期待がかけられています。

校区住民協 会長 山崎 徳次郎

令和8年2月度役員会

開催日時と場所：2026年2月7日（土）

出席者：役員：山崎徳次郎、石井達郎、鈴木為之、長嶋啓、新倉洋一、鈴木友行、河邊寛、瓶子純一、

13時00分～15時00分 久木会館

大塚邦彦、小林寿志、龍村敦子 役員外：高野毅、行政：堀田昌希、相山玲奈。 以上14名

議題

① 事務局からの連絡事項：1月23日住民協連絡会参加報告（山崎、石井、龍村）

1月27日池子接收地返還促進市民協議会から南関東防衛局に池子接收地の返還に関する要望書提出の報告（石井）

② 各部会事業の展開、フリートーク：

↑ 減災部会：部会長森戸さん欠席のため現在とこれからの活動の確認。（急傾斜地区マトメとこれから。携帯トイレ購入のこれから）各地域の避難行動要支援者避難計画の進め方の模索。など

↑ 企画部：今後の計画他

↑ 会館運営：次年度も会館の指定管理は住民協が担う。

③ 住民協ひろばの4月以降の編集、発行について：瓶子さん、鈴木友行さんの2名体制で編集発行する。サイズA4の裏表。第1土曜日発行（発行の間隔は今後決定する）編集担当は瓶子さん。コーディネーターは鈴木友行さん。記事は鈴木友行さんが集め、字数調整作業などをおこなう。瓶子さんは紙面に流し込み作業の担当となる。以上が決定事項。印刷用紙、印刷については担当者が4月にむけて詳細は決めていく。

《寄稿》

住民協ひろば編集者の交代

校区住民協 会長 山崎 徳次郎

鈴木為之さん

久木小学校区住民自治協議会にとって唯一無二の人物が筆を置くと昨年末伝えられました。

曰く「自分がこの席にいたことが後輩の輩出を妨げているので「住民協ひろば」も100号に達した事でもあり2025年度をもって「住民協ひろば」の編集及び理事を退任したい」と。

え!!さあて困った!事務局長ともども後任の適任者は直ちに思いも寄らずで!

当住民協の若返りの必要性は痛いほど分かっています、うん……。

取り敢えず誠首会談を!!

何せ「住民協ひろば」のKnow howはすべからず鈴木さん本人の頭の中で、それに私どもはどっぷり頼り切っていましたので。

「住民協ひろば」の文章の構成、配分、配置。誰に出筆依頼をするのか、今月号の目玉は、等々会議は困惑を極めました。時間も無い、知恵も無

い。

ですが分かっているのは現状の「住民協ひろば」を発行、維持することは無理です。出来もしない。毎月の発行は難しいので季刊にして年4回の発行はどう?いや広報として少なくとも2か月に一回は?慣れてきたら毎月の発行も可能か。紙数は?カラー印刷?写真を多用し紙質も変え、デザインは?女性のセンスも欲しい。等々喧々譁々。こんな作業を10数年間に渡り、たった一人で住民協発足前の準備委員会も含め計128号(令和8年3月迄)、「住民協ひろば」107号までを淡々と処理されてこられた鈴木さんて何者ですか?

「住民協ひろば」だけでなく「住民協ひろば特別号」、総会資料等も担当して頂きました。

今後も健康に留意して後輩を見守り、指導を、お願い致します。

本当に長い間、有難う御座いました。

赤い電車は赤い糸

君は向こうのホームに

仲良しとおしゃべりしてる

僕はこっちのホームで

僕が君を見ていると気づかれないように

ポケットに手をつっこんで

後から来た男友達と話してる

君の高校はあっち

僕の高校はこっち

君の赤い電車の方が先に来てしまう

僕のは少し遅れてやってくる

君が電車に隠れる瞬間

こっちを見てくれる

毎朝会うけど

存在があるような

ないような

朝の一瞬のデート

その君と結婚できて

今も赤い電車に乗って

あっちとこっちと街に出かける

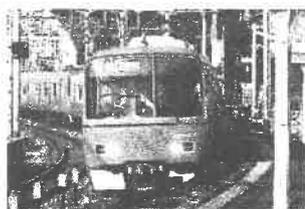
赤い電車は

赤い糸だったんだ

駄洒落栖人 (細野 裕)

(なまのり・京急のまちのマガジン)

0550195の転載)



散歩で出会う 今度は

2025・12・27 駄洒落栖人

団地の駐車場を出るとなだらかな坂となる
そこを私は5分で駅まで行く 毎朝
8月のある朝
正面から男性が手ぶらで歩いて登ってくる
私はいつものように おはようございます
向こうも あ、はい、おはようございますと
慌てて
今週もお会いして おはようございますと
今日は彼、慌てず、落ち着いておはようござ
いますと
3週目の朝
お会いしておはようございますと
彼、私に近寄ってきて、名刺を差し出した。
あれまあ、少し驚いた私 立ち止まって
丁寧に受け止めて 仕事に行ってきますから
と答えた。
彼、あ、これ会社の名刺 辞めてここの団地
に引っ越してきたって 足早ならぬ口早に言
った
4週目

おはようございます おはようございます
彼 今度って言いながら
口元でお猪口を飲み干す仕草
あ、はい よろしく
私は ちょっと嬉しくなって 駅に向かった
5週目
彼に会わない 6週目も 7週目も会わない
そして しばらく 姿が見えなくなった

寒くなったから朝の散歩を辞めたんだなんて
勝手に思った
ある日思って F棟の1階って云ってたなあ
と
帰り道寄ってみた
あ、確かに彼の名前がまだ表札にある
高齢の男性だった
よし、今度は訪ねて一杯飲む日を決めよう
と思った。

校区住民協 監事 細野 裕

《トピックス》 「住民協ひろば」・リニューアルの前に

・・・10年を振り返る

校区住民協 理事 鈴木 為之

現「住民協ひろば（月刊）」の編集に携わって参りましたが、2026年3月をもって私の編集を終了といたします。従って現「住民協ひろば」は、第107号（2026年3月号）をもって終刊となります。

10年間のご愛顧に深く感謝いたします。4月から、新しい編集陣によるリニューアルした「新住民協ひろば」が発刊されますので御期待ください。編集を終了とする最大の理由は、加齢により今後長期にわたって編集を継続するのに、いささかの困難を感じているからです。

現「住民協ひろば」は、住民協の前身である準備会発足（2015年6月）と同時に「準備会ひろば」として発行し、併せての発行刊数は128号となります。A-4・4ページ、モノクロ印刷、月刊発行部数は大凡500部、制作費用は1部当たり2円弱、全会員に配布、構成員には自治会・町内会から回覧の形式で提供、という形を取りまし

た。

発刊から終刊までの10年の変化を辿ってみると、住民協と共に歩んできたその軌跡を見ることができるので振り返ってみましょう。

発行の目的としたことは何だったか、準備会創刊号と協議会創刊号に記載された内容を振り返ってみましょう。準備会創刊号は、久木と山の根を一つにする意味合いから「山久ひろば」（注：第2号から準備会ひろばに名称変更）、その中の「広報誌の発行」という欄に、「地域住民にとって、準備会って何？協議会って何？を、少しでも少なくすることが何よりも大切」とあります。協議会創刊号には、「住民協ひろば」は住民協の広報の場であると共に、地域住民の交流の場として役立ちたい」とあります。つまり広報と共に交流誌としてスタートしたわけです。

記事内容は、大別して広報・交流・情報提供に分けられます。

発行当初考えた地域の細かい情報の提供は、モノクロ月刊誌の限界から時代が求めるスピードや注目度に無理があることを悟り取りやめとし、住民協から伝えたい情報や部会の活動報告を広報の主体としました。そして部会活動が落ち着いて情報提供の減少に伴い、役員会議事録に集約しての掲載に代わりました。交流の部では、主として住民協役員の方々から巻頭言として、そして寄稿文として多くの方にご協力頂きました。

現住民協ひろばの特徴は、地域の紹介をそして住民にとって直接・間接的に関わりをもつ社会問題について連載を掲載したことが挙げられます。地域の紹介については、①地域の過去の姿を「温故知新」の表題で、②地域の新しい姿を「グループ紹介」として地域で活動する16のグループの紹介、「久木朝市ひろば」として出展グループの紹介、等が挙げられます。

社会問題の連載としては、①カーボンニュートラル、②未病・健康に関すること。カーボンニュー

トラルに関しては2年数か月にわたり24回以上の連載となりました。そして最近の特徴は、減災やコメの問題等身近な社会問題を啓発・情報提供或いは紹介の形で掲載することが増えたことです。特に減災に関しては、住民協活動の支柱となりつつあり、重点的に取り上げています。つまりは、広報・交流誌から情報提供誌へと色彩を変えてきたといえますね。

SNSの普及による情報提供の遅速・情報の軽重に係る2極化、そして紙面の主役がカラーに変わったことで、モノクロ紙面の限られた伝える力、等々に向き合っ、比較的重いとされる情報を主体とした紙面構成は、一つの辿りつく所ではなかったかと考えています。

新住民協ひろばは、色彩豊かな地域に寄り添った誌面となるでしょう。

最後に改めて永年のご愛顧に感謝すると共に、時代の要請に即した「新住民協ひろば」の出現に期待するところ多大です。

お詫びと訂正

2月号記載の一部に数値の欠如がありましたので、お詫びして訂正いたします。

3ページ 《災害時の家族間の行動、連絡方法についてお尋ねします。》

話し合っている	話し合っていない
58	19

11 《水・食料・必要物資の備蓄の準備を聞いています。》

備蓄している	備蓄していない
54	9

編集後記

「住民協ひろば」発行第107号(準備会から128号の件・・・)

タイトルにある様に本号を以って 久木住民協の設立準備の期間かすると約10年に亙り、毎月住民協および地域の情報等を掲載し地域の広報紙としての重責を担ってきましたが、当紙の編集をお願いしていた鈴木為之理事が勇退される事になりました。令和8年4月からは新編集スタッフのもと新たな「住民協ひろば」が体裁を変えてスタートすることになります、

逗子市内の住民協としては一早く地域広報誌を発行、内容も住民協組織の協議決定プロセスを開示する役員会議事録の掲載、各種活動状況の報告、地域の人と組織の紹介、また、未病・健康特集、環境問題特集等の企画・掲載を編集長として一手に担って来られた鈴木理事の熱意、慧眼、努力にはただただ感謝と称賛の言葉しか思い当たりません。「鈴木さん有難うございました。」

(尚、「住民協ひろば」の今までのバックナンバーは「逗子市住民協ひろば」で検索するとPC等でも見ることが出来、鈴木理事の偉業が確認できます。)

事務局長 石井 達郎